華麗なる図書館利用者のための

クールリブラー講座

Cool Librar

カジのひねもすハイスクール純情派

文／カジ

高校に進学しても相変わらずなカジ少年の新たな物語がやんわり始まるよ

前回ついに最終回を迎えた「クールリブラーカジのうら若き青春黙示録」。今回からは「クールリブラーカジのひねもすハイスクール純情派」としてリスタートを切ることになった。左のロゴ下回りがちょっと変わったので確認してほしい。ハイスクール純情派の主旨はいたって簡単。中学校編から高校編になっただけだ。『純情派』などと怪しいピュア感を醸し出しているが、特に意味はなく、純然たる響きのみでこのサブタイトルを決めたのである。図書缶編集担当にももちろん事前相談なしだ。

千絵ちゃんのおかげで学校にもそれなりに行くようになっていたカジは、当たり前のように中学を卒業し、当たり前のように高校へ進学していた。ただそこには、胸に抱くべき希望のようなものは一切なかった。カジの進学先は、中途半端な学力の者たちが集まる偏差値60に満たないような平々凡々な公立高校である。

学年360人・9クラス。入学式を終え、1年3組に配属されたカジは「高校のクラスってAとかBじゃないんだな」などとくだらないことを考えながらに教室に入る。が、見る顔見る顔一様に覇気がない。「おいおい、なんだこの冴えない面々は…」

そんな中、唯一鋭い目をしたヤツがひとりいた。八木だ。この目は「併願した名門高校を惜しくも不合格となり、やむなくここに入学してきた系のヤツ」の眼光だ。予想どおり八木は、その優等生ぶりを発揮し、入学後わずか数日でクラスのリーダー的存在に成り上がっていた。ただ、元々隠れキャラ出身のカジは、彼に嫉妬するわけでもなく、彼の魅力に惹かれ笑いのツボも合うことから、すぐに仲良くなっていた。後々いろいろな場面でこの八木は登場すると思われるので、ぜひ覚えておいてほしい。八木こと、八木浩幸（実名）だ。

さて、いきなりだがオリエンテーリング合宿である。入学後2週間足らずで訪れた最初にしてなかなかのビッグイベントだ。友達を作るという大義のもと、その実、カンヅメ状態の勉強会。中途半端な学力の奴らが集まる故、

何かにつけて勉強を絡めてくるところがこの高校のやり方なのだ。

ということで、カジたちのどたばた劇高校編の始まり始まり〜

高校の選択は大事だよ

これは中学生のティーンズに最も訴えたいことの一つ。単に学力だけで選ぶっていうは少々危険だ。その高校がどんな校風なのかを諸先輩方に聞いてみるのも大切。カジの場合、仲良しの同級生がたくさん行くからという理由で高校を選んだのだが、実際通ってみるとアホほど勉強を強要してくる不自由な学校だったのな。

ご意見・ご感想はこちらへ
coollibrar@hotmail.co.jp